

### 第 58 回 大名茶人・松平治郷と茶入「残月」

松江松平家 7 代藩主・松平治郷（はるさと）は、茶人として独自の茶道を極め、茶道具を研究し、その収集・保存に努めたことで知られています。その確かな審美眼で分類された茶道具には、大名物の「油屋肩衝（あぶらやかたつき）」「圓悟墨跡（えんごぼくせき）」など、現在国宝に指定されているものも多数あります。

治郷が所持した道具の中で、「残月（ざんげつ）」と呼ばれる茶入があります。現在所蔵している文化庁のホームページ（※1）によると、南宋時代（12 から 13 世紀）に制作された肩衝茶入で、「口頸部が高く、端を強く外反させる。肩には丸味があり、胴はわずかに張る。釉薬は鮮やかな柿色を呈し、肩には残月状に青白の釉溜まりがあり、反対の胴にも青白色の釉が流れる」、「唐物茶入で最も高く評価された肩衝茶入の優品」であり、「茶道文化史上、極めて貴重な作品」と評価されています。

このことについて、『松平不昧伝』（※2）に掲載されている、治郷が退隠後の文化 8 年（1811）、息子・松平齊恒（なりつね）に当てた「道具帳」によると、「宝物之部」にその名前があり、「天下名物なり、永々大切にいたすべきものなり」と記されています。

また、『松平不昧伝』には、この茶入は「もと東山義政の所蔵なり。後秀吉より家康に伝はりしが、榊原康政に贈り、後京極安知、金壹万両にて之を得、松平越中守に譲りしが、大坂の町人泉屋六郎右衛門、巨額の資用を調べし為め、之を与えたり。寛政の頃、公代金二千両を以て購求せり。」と記されています。

治郷がこの「残月」を購入した際のことを記した史料が、治郷の御納戸役として仕えた松江藩士のご子孫の家から見つかりました。以下にその内容を紹介します。

(包紙) 「残月御茶入 御用状一通」

### 御用覚

- 一、三井方の茶入を御通行の際にご覧になった。そのご挨拶として、串鮑五串・串海鼠五串を長兵衛方まで運送し、お礼を申し述べるようにと仰せ遣わされた。
- 一、大坂にて泉屋六郎右衛門と申すものの所持する残月の茶入を二千両でお買い上げになった。右の外、入箱・包立物等は、舟便で国元（松江）へ運ぶようにと仰せ出され、このことを津田幸助父子へ申し置いた。右兩人より運送するので、到着した際は受け取り置くように。ご帰城の上、またはご入国の際に御少汰があるので、このことを心得ておくように。

(↓今瀬家文書)

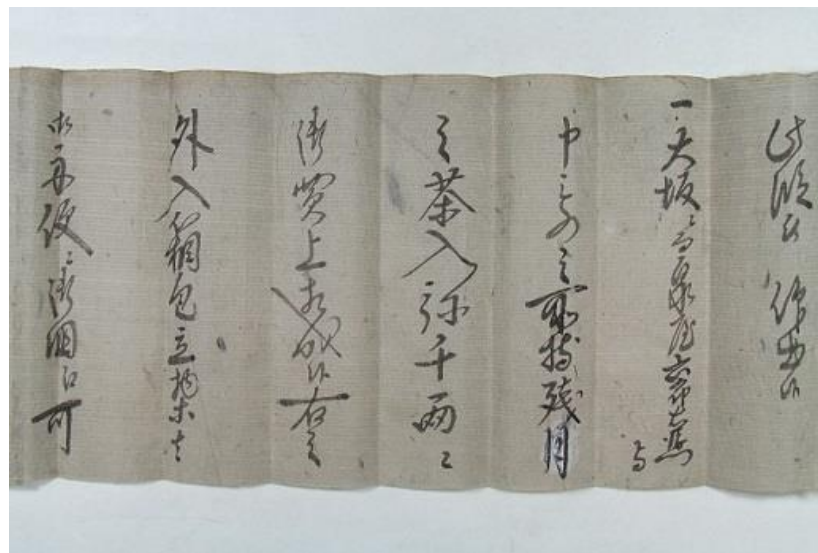
以上

十一月廿三日小川太之進

佐々佐佐

今瀬里助殿

村田唯市殿



一条目には、大坂の豪商・三井家へ立ち寄り、所有する茶入を見せてもらったこと、そしてもう一条には、泉屋六郎右衛門という人物から茶入「残月」を2千両で買い上げたことが記され、治郷の大坂における茶道具研究・収集の動きを見ることができます。

宛名にある、「今瀬理助・村田唯市」は、「松江藩列士録」（島根県立図書館所蔵）によると、同時期に治郷の御納戸役を勤めた人物でした。今瀬理助は、治郷の退隠後にも御納戸役を仰せつかっており、さらに治郷の没後は「大圓庵様御馴染（おなじみ）之者」とされ、遺品の道具を下されたことも記されています。

また、二条目の「津田幸助父子」は、同じく「松江藩列士録」によれば大坂詰の藩士であり、そのため、購入した茶入の付属品を国元へ送るといった役目を仰せつかったものと思われます。

史料には年号が書かれていませんので、はっきりとした年代は不明ですが、『松平不昧伝』の記述を参照すれば、寛政年間（1789から1801）頃と考えられます。この時期、藩主・治郷は参勤交代のため、江戸と松江をほぼ1年ごと（寛政8年（1796）の参府と10年（1798）の帰国はなし（※3））に行き来していますので、その際に大坂に立ち寄り、購入したものと思われます。「御帰城の上、又々御入遊ばされ候御沙汰御座候」とあるので、茶入の付属品のみ船便で送り、茶入そのものは帰国までの道中、治郷が大切に持っていたのでしょうか。

内容は至って事務的ではありますが、この二条からは治郷が優れた茶道具を積極的に実見して研究し、また、入手してその保存に努めようとしていた姿を垣間見ることができます。

【参考文献】

※1 文化庁ホームページ

(外部サイト) [http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/kokuyuzaisan/bunkazai/pdf/konyubunkazai\\_h24.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/kokuyuzaisan/bunkazai/pdf/konyubunkazai_h24.pdf)

※2 『松平不昧伝』大正6年刊(増補復刊版平成11年原書房)より

※3 西島太郎『松江藩の基礎的研究』第六章「松江藩主の居所と行動—京極・松平期—」2015年岩田書院

(平成28年9月1日/松江市歴史まちづくり部史料編纂課副主任/小山祥子)